

*(Faint handwritten text in multiple columns, likely bleed-through or light ink.)*

歌合

建保七年二月十日 當座平兵衛 具書

題

春風

春雨

春月

春雪

春野

春山

春水

春風

春意

春月

春水

春風

作者

左

御製

右近權中將藤原朝長為家

右近權中將藤原朝長伊平

右

*(Small decorative seal or stamp on the left edge.)*

*(Small decorative seal or stamp on the left edge.)*

宮内女輔藤原光経

大膳亮藤原範綱

左衛門権女尉藤原康光

講師

講師

判者

一番 春氏

春左勝

女房 順徳院

やたの野に雪より草の根よりあはぬ色にまよふ風を吹

右

光経

朝日さき山は白く海は深く霞はゆるぎなき風を吹

二番

左持

為家朝臣

花の香をおのふ白き立くく木の梢は風を吹

右

大いなるもれ交る風よきうとけりゆる鳥はしる

三番

左

伊平朝臣

青柳の糸もよほる春風よけりしきりし朝霞は

右

範綱

霞は吹くもあまき風よけりしきりし朝霞は

四番 春雨

右勝

女房

池水に汀の柳 露のちりて浪はささる 春乃むらぬ

右

光経

桜のくさし木は目玉をぬるの海にみくらふ山の色は

五番

左

為家朝臣

とくあては四方の木はあも春をぬるあはるる青柳の糸

右勝

康光

春雨よのちとをねん人志は待て 櫻は花の節に陰

六番

左勝

伊平朝臣

山陰やつと水は残るあは雪も流をえらるる春をぬる

右

範綱

涼山くろ木はあも今春雨よのちとを野の若菜

七番 春月

右

女房

春のちみ霞はささるか之雲は月の色も色はるる

右

光経

春のちみ人やはな花はぬ朽木は松の春の夜は月

八番

右持

為家朝臣

松風も霞よじり高根よりわたり春の夜の月

右

康光

香波もあきあきとわたりしゆまの霞の月より物枝  
九番

左持

伊平朝臣

志賀のあきあきとわたりしゆまの霞の月より物枝

右

範綱

武蔵野やあきあきとわたりしゆまの霞の月より物枝

十番 春雲

左持

女房

春日野のあきあきとわたりしゆまの霞の月より物枝

右

光経

雪降るまじきや雲のあきあきとわたりしゆまの霞の月より物枝

十一番

左持

為家朝臣

春日野やあきあきとわたりしゆまの霞の月より物枝

右

康光

あきあきとわたりしゆまの霞の月より物枝

十二番

左持

伊平朝臣

百子鳥の春の空かきくはれと残る谷の春

右

範綱

若菜はむ我の涙も白砂の雪成りておとひら

十三番 春野

左持

女房

春の野にふれあはせしるあまの花と身をむ

右

光経

あまの鳥の鳴き声はひびき響け霞のうらやまの春

十四番

左持

為家朝臣

末の秋の野にふれあはせしるあまの春の空か

右

康光

草花もやむらん春の日のすまじくは武蔵の春

十五番

左持

伊平朝臣

とく霜のゆく重なりゆくはれと野の緑は春の空か

右

範綱

とく霜のゆく重なりゆくはれと野の緑は春の空か



二十番

左勝

為家朝臣

さへし小田の昔代さへし新方さへし山阿の水

右

光経

すまふしあさふとあそむ水もえくかぬまのころ

二十一番

左

伊平朝臣

まほふさふさふさあそむ水もえくかぬまのころ

右勝

康光

やうしをさへしあそむ水もえくかぬまのころ

二十二番

左勝

如彦方

山阿の花いさふさふさあそむ水もえくかぬまのころ

右

範徳

さへし雪もさふさふさあそむ水もえくかぬまのころ

二十三番

左勝

為家朝臣

春もさふさふさあそむ水もえくかぬまのころ

右

光経

やうしをさへしあそむ水もえくかぬまのころ

二十四番

左 枳

伊平朝臣

はしりりり不焼のまもりともあもや芦屋の里は春の日々

右

康光

見よとせあもや燭赤か即交霞あもや涼弟の里

二十五番

春恋

左 枳

女房

ゆき山もあも思のまもりともあも霞あもや涼弟の里

右

範綱

冬は後ふ刺端の栞れ移番よあも霞あもや涼弟の里

二十六番

左 枳

為家朝臣

むねも春のつ夜ともあも霞あもや涼弟の里

右

光経

春は日のお交笑もあも霞あもや涼弟の里

二十七番

右 枳

伊平朝臣

あも霞あもや涼弟の里

右

康光

とあも霞あもや涼弟の里



二十八番 春祝

左勝

女房

神尾やあゆむるまは春の日よちう交笑と程むりあり

右

範綱

かみりあしをのふしと今年より春つるも君の代る

二十九番

左持

為家朝臣

雲うききまは朝日もさして三笠の山はまきの光

右

光経

君の身は常盤堅船の色かき松竹は万代の春

三十番

左持

伊平朝臣

色久ぬらにみ松の陰うも君の身は世のまふあふあり

右

康光

幾度う折てかきむさるもあは雲井の雲はまの初花

右延保七年二月十日歌合以古馬一本校合

藤原

藤原

卷百九十七

九十一

*[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script]*

歌合 建保七年二月十二日 當座

題

深山春

夕陽鴈

水郷秋

朝野康

被短意

曉更意

作者

一左

御制歌

右近衛權女將藤原朝臣伊平

兵衛内侍

右

中宮亮藤原朝臣範宗

官内侍輔友宗光經

卷百九十七

九十一